

## 『AMAZING TOYAMA』フォトプロジェクト

富山県富山市 × 株式会社シー・エム・エス

### 取組概要

富山市では、市民のまちに関わりたいという当事者意識、いわゆる「シビックプライド」の醸成することを目的に、市民一人ひとりがまちの魅力に気づき、発信できるようになることを目指して、株式会社シー・エム・エスとの協働により、「AMAZING TOYAMAフォトプロジェクト」を実施。



テラウチマサト氏による講座



市民交流広場での屋外写真展「フォトキット」

### 基本情報

代表地方公共団体	富山県富山市
代表民間団体	株式会社シー・エム・エス
他の連携団体等	株式会社本瀬齋田建築設計事務所/富山大学芸術文化学部
カテゴリ	教育プログラム・学力向上／移住・定住／文化・コミュニティ対策
事業費	
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2014年11月～2015年5月

### 取組内容



写真部の活動風景・教育プロジェクト



SNSへの投稿・シテイスケープでの展示

この取組で解決した課題	富山市では、都市の認知度とイメージを高めることを目的としたシティプロモーション事業とあわせ、市民一人ひとりが「シビックプライド」を持ち、地域の魅力を発見、発信できるようになることを目指していた。
解決に向けた手法	世界的な写真家で富山市出身のテラウチマサト氏が代表を務める株式会社シー・エム・エスと富山市が連携し、2015年に「AMAZING TOYAMAフォトプロジェクト」を開始。市民主体の「AMAZING TOYAMA写真部」を設立し、2022年までに延1000人近くの写真部員が、カメラの技術ではなく、モノの捉え方や切り取り方、違った視点から見る工夫などをテラウチ氏から学ぶことにより、市民自らが「観る人の心を捉える写真」を撮影できるようになり、まちの魅力を発見、発信できるようになってきている。 また、そのように撮影された魅力的な写真を、屋外写真イベントやシテイスケープでの展示、SNSへの投稿などを通じて、多くの市民と共有。さらに、小学4年生を対象に、写真撮影から生き方、相互理解、多様性を学ぶ「教育プロジェクト」を実施することにより、こどもの頃からのシビックプライド醸成に取り組んでいる。

## 取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	富山市の委託を受け、株式会社シー・エム・エスがAMAZING TOYAMA写真部の運営、屋外写真展「フォトキト」の開催、市内の小学4年生への写真を通じた教育プロジェクトを実施。
地域関係者との連携方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなかにおいてまちづくり活動に取り組んでいる「株式会社本瀬齋田建築設計事務所」に、屋外写真展「フォトキト」の空間演出を、コンセプトの検討、設計、施工まで一貫して依頼。</li> <li>・写真展のコンセプトを多くの市民にわかりやすく伝えるロゴの制作を、地元の富山大学芸術文化化学部の学生に依頼。</li> <li>写真部員だけでなく、学生や民間企業などとの連携を積極的に図ることにより、より多くの市民と関わるきっかけを作り出している。</li> </ul>
資金調達方法	富山市「選ばれるまちづくり事業費」委託料
資金調達方法の補足	
事業推進上の課題・工夫	<p>市民が継続してまちの魅力を発見し、発信していくためには、事業の根幹となる「AMAZING TOYAMA写真部」の活動を続けてもらうことが重要であることから、まず楽しく講座を受講でき、まちの魅力を見つける実力を高めあえるよう、写真部員どうしのコミュニケーションを大切にしたりキュラムを組むようしている。また、多くの部員のなかから、市への貢献や魅力の発信に意欲的な部員で「リーダーズ」というチームを編成し、部員の先導役やイベントの企画運営などの特別な役割を担っていただくことで、まちに関わる当事者意識を醸成している。そのほか、コロナ禍においては、いち早くオンラインで講座を開催して、活動停止を回避。小学4年生への写真を通じた教育プロジェクトにおいても、GIGAスクール構想で配備されたタブレットPCを有効活用し、オンラインでの授業を実施。</p> <p>市民交流広場での屋外写真展「フォトキト」では、富山湾に新鮮な魚が集まる様子をイメージし、「富山らしさ」を感じられるユニークな展示方法を採用することにより、会場を巡って写真を撮る楽しさを演出している。</p>

## 担当者のコメント

## 優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 富山市民ひとりひとりが、自分の住むまちを好きになり、富山市に住んでいるからこそ撮れる「人の心を捉えて離さない写真」を市内外へ発信することにより、富山市に住み続けたい、住んでみたいという人の増加に繋がるとともに、この素敵な故郷を次の世代に伝えていくプロジェクトである。また、小学生への写真を通じた教育を実施することで、自分の住むまちの良さを幼い時期から認識し、愛着を育む効果を発揮する。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 AMAZING TOYAMA写真部に参加する市民に活動を継続してもらえるよう支援することが重要である。また、事業のなかで、写真部以外の学生や活動家、民間企業などに担ってもらいたい役割を検討し、参画を促すことで、「まちをよくするために関わる当事者意識」を持つ人が増え、シビックプライドが醸成されていく。</p> <p>③モデル性・波及性 自分のまちに住み続けたい、住んでみたいと思う人を増やすことは、人口減少の時代において、地方自治体の共通した課題である。「AMAZING TOYAMAフォトプロジェクト」は、子どもから大人、年配者、性別など関係なく誰もが扱えるカメラ（写真）を活用して、まちの魅力を市民自らが発見、発信する市民参加型プロジェクトであることから、どのまちでも導入可能である。また、スマートフォンが広く普及し、SNSによるコミュニケーションが日常的になっている現代においては、市民どうしがまちの魅力を容易に共有できるとともに、様々な関係人口に対して市民自らが我がまちを広告する「市民プロモーター」の育成も期待できる。</p>
----------------	--